

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	武雄市立若木小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響でICT化に対する職員のスキルが上がり、授業のライブ配信やオンライン授業等を、抵抗なく取り組むことができた。 小規模校の強みをいかして、職員間での相談や課題の共有を重ねた結果、全体的におおむね良好な結果となった。 コロナ禍をポジティブに考えて、カリキュラムや学校行事を見直していく必要がある。
2 学校教育目標	ふるさと“若木”を愛するたくましい若木っ子の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の利活用による授業改善や、望ましい学習習慣の定着を図ることで「わかる子ども」を育成する。 人権教育や特別活動を充実させることで「かんしゃする子ども」を育成する。 食育指導や体育的行事、保健指導の充実を図ることで心身ともに健康な「きたえる子ども」を育成する。 地域の特色・人材を活用する若木ならではの教育活動を行い、地域との連携を図るとともに、業務の改善を図る

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
				●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、学力向上対策の話し合いにより、取り組みの促進を図る。	B		・マイプランの成果目標を達成できたと申告する教師は75%。
	①問題文を正確に読み取るための手立てを取り入れる。 ②自分の考えを表出するための書く活動を取り入れる。	◎学校評価アンケートによる自己評価で、①「問題文を正確に読み取る力をつけるための指導を行った」と②「自分の考えを書いたり、説明したりする力を育てる指導を行った」の達成率が90%以上	①問題文のキーワードに線を引ながら読む活動を取り入れる。 ②ノートやワークシートに自分の考えを書く時間を確保する。	B	①問題文のキーワードに線を引ながら読む活動を取り入れた教師は75%。 ②ノートやワークシートに自分の考えを書く時間を確保した教師は88%。	B	①問題文のキーワードに線を引ながら読む活動を取り入れた教師は83%。高学年は問題文の量が増えるので、キーワード一つひとつに線が引くだけでなく、大まかに情報を整理していく方法が効果的である。 ②ノートやワークシートに自分の考えを書く時間を確保した教師は100%。どの学級も書く時間の確保を意図して授業が行えた。	B	・児童がよりわかりやすく問題文を理解している方法を学年によって工夫されており、自己表現の向上につなげてほしい。ICT充実に反して、読む、書く、思考力が弱っていないか心配。家読も含め、基本的な力も大事にしてほしい。	
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童の学校評価アンケートの道徳に関する項目において肯定的な評価が全体の80%以上 ○児童の学校評価アンケートの学校美化・ボランティア活動に関する項目において肯定的な評価が全体の80%以上	・人権集会を充実させたり、ふれあい道徳を実施したりして、豊かな心を育む。 ・全校で苗植え、水やりを行う花いっぱい活動を実施する。	A	・平和集会やふれあい道徳を実施し、命の大切さなどの豊かな心を育む活動を実施することができた。 ・制限があったが、田植えや敬老会へのお手紙作り等で地域の方々と交流を行い、感謝の気持ちも育むことができた。	A	・学校評価アンケートの道徳に関する項目において肯定的な評価が全体の90%。人権集会や花いっぱい運動、国スポのほり旗製作などを計画的に実施し、豊かな心を育むことができた。 ・児童の学校評価アンケートの学校美化・ボランティア活動についての肯定的な評価が全体の90%で、達成できた。	A	・集会活動やふれあい道徳、地域のひととの交流など、豊かな心の育成ができています。今後も継続して豊かな心を育むことができるような取組をし、自分のことだけでなく、周囲のことに関心をもち、幅広い視野をもってほしい。	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○職員や保護者の学校評価アンケートにおけるいじめ防止など(いじめ防止のための取り組み)についての項目で肯定的な評価が90%以上	・心のアンケートや生活アンケートを年間6回実施し、いじめの早期発見早期対応に努める。 ・毎週の連絡会において児童の様子などを確認しあい、対応が必要な場合は、対策会議を開く。	A	・心のアンケートを2回実施し、「困っていることがある」と答えた児童が2割程度あり、指導・支援を行った。 ・毎週定期的に児童連絡会を通して、児童の悩みを共通理解し、必要に応じて対策会議を行いいじめの早期発見・早期対応に努めた。	A	・心のアンケートを1月に実施し、アンケートを基にした面談を全員に行い、児童の心のケアを図った。 ・職員や保護者の学校評価アンケートにおけるいじめ防止についての項目で肯定的な評価が90%以上で達成できた。	A	・心のアンケートを通し、児童の心のケアが図られている。いじめはあってはならないので、今後も、きめ細やかな対応で予防、早期発見、改善に努め、児童にとって安心・安全な学校づくりを継続してほしい。	
	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○代表委員会や委員会活動、クラブ活動を100%実施する。 ○なかよし活動(縦割り班)や青空教室を100%実施する。	・代表委員会や委員会活動、クラブ活動を年間計画通り実施し、集団への所属感や連帯感を味わわせる。 ・児童の自主性を尊重した活動を設定し、異学年の仲間と互いに助け合う雰囲気を作る。	・児童の自主性や集団への所属感、連帯感を高めるために、特別活動の研究を行い、各学級や学年を超えて、計画的に活動を実施した。 ・なかよし活動を4回実施した。青空教室は、6月はコロナ対応のために中止、9月は予定通り実施できた。	A	・児童の自主性や集団への所属感、連帯感を高めるために、特別活動の研究を行い、各学級や学年を超えて、計画的に活動を実施した。 ・なかよし活動を4回実施した。青空教室は、6月はコロナ対応のために中止、9月は予定通り実施できた。	A	・特別活動の研究での成果と課題を明らかにし、児童が自主的・実践的に取り組む授業の在り方を共通理解することができた。 ・異学年の交流を計画的に実施し、高学年の児童の自主性を育むことができた。	A	・様々な活動などを通して、特別活動の充実を図り、児童の活動意欲を高め、自主性を育てることができている。異学年交流や学校行事等、児童の活躍の場を多くすることで自信をつけようより人間関係につながり、将来に向けての芽が育っている。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①進んで運動に取り組み、体育授業や体を動かすことが楽しいという児童の増加を目指す。(児童アンケート達成率90%) ②家庭と連携して「早寝、早起き、朝ご飯」を徹底し、よりよい生活リズムの定着を図る。(児童アンケート達成率90%) ③発達段階に合わせた食に関する指導を行い、様々な食の力が身につくよう、系統的に指導する。	・体育的行事や授業の工夫に加え、運動委員会の活動を充実させ、全校遊びを年3回実施する。 ・県からの朝食摂取調査(6月、11月)等を活用して、よりよい生活リズムの定着に向けての啓発を行う。 ・食に関する指導や給食時間を充実させ、学年に応じた食に関する力が身につくよう系統的に指導を行う。	A	・1学期に、全校遊びを1回実施。2学期は体育行事の工夫を行っていききたい。 ・朝食摂取調査を実施し、「朝ごはんをいつも食べる」と答えた児童が90%以上。 ・給食時間に食に関する全体指導を行った。2学期では、学級や教科での指導も行っていきたい。	A	・運動委員会が中心となって、1学期、2学期に1回ずつ全校遊びを実施した。体育的行事では、コロナ対策のため、持久走大会を実施することができなかった。児童アンケート達成率90%。 ・朝食摂取調査を実施し、「朝ごはんをいつも食べる」と答えた児童が90%以上。しかし、結果がより明確になるように、調査方法を検討していきたい。 ・給食時間に食に関する全体指導を行った。来年度は、保護者や児童への食育指導を計画的に実施していきたい。	A	・食に関する指導や生活リズム作り、全校遊びなどを通して、児童の健康、体づくりの充実を図っている。栄養バランスを考えた食事なども児童や保護者が興味ある事項で提供できたらベストだと思う。	
○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	・							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間削減の意識向上	○業務を効率的に行おうとする職員の意識を高める(時間外勤務時間45時間未満職員を90%以上)	・定時退勤日の設定 ・退勤予定時間掲示ボード設置による意識改革 ・ICT活用による会議時間の短縮	B	・定時退勤日の設定により、時間に対する意識を高める環境を整備した。 ・超過勤務時間は繁忙期を除き、時間外勤務時間45時間未満職員80%以上。 ・ICT活用により、情報を事前に把握できることで、会議時間の短縮の実施ができた。	A	・業務を効率的に行う意識を高める環境整備を行った結果、時間外勤務月平均30時間で前年度比5時間減となった。(時間外勤務時間45時間未満職員90%以上達成) ・ICT活用による資料の事前配布や提案方法の工夫がなされたことにより、会議時間短縮・会議回数減につながった。	A	・業務の効率化に対する先生方の意識向上により、成果達成できている。業務に支障がないように働き方改革を推進してほしい。通勤距離が長い職員もいることから、できるだけ時間外勤務時間を軽減して健康維持に努めてほしい。	
○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	・							

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
				○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	・			
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	・							
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	・							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍ではあったが、限られた条件に合わせて、方法を変えたり、時間を短縮しながら取り組むことができた。 小規模校の強みをいかして、職員間での相談や課題の共有を重ねた結果、全体的におおむね良好な結果となったが、学力の向上は今後も課題である。 保護者や地域の方に対して来校の人数を制限する場面が多かったが、最後のロングの集会は、人数の制限なく行うことができ、行事で児童を育てることの重要性を感じた。 マスク着用などの考え方の変更に伴い、コロナ以前までのやり方に安易に戻すのではなく、コロナ禍で学んだ新しい考え方で方法を検討していく必要がある。
----------------	--